



校長室だより

令和5年度

7月7日

NO. 16

夏本番 挑戦して飛び立つ

5、6月には、巣で親鳥のえさを今か今かと待っていた学校のツバメたちも、もうほとんどが巣立っていきました。(まだ、不安そうに巣から顔を出しているツバメもいますが…) 子ツバメたちが、初めて巣から飛び立つ瞬間、きっと人間の気持ちがあるのであれば、ハラハラドキドキだったことでしょう。自然は厳しいもので、ツバメも巣の居心地がよくても、いつまでも巣に居続けることはできません。自分でえさをとれるようにならなければ、命にもかかわります。それでも、自分で飛べるようになったツバメたちは、気持ちよさそうに大空を飛び回ります。運動場で仲間と追いかっこをする子ツバメは、とても楽しそうです。生き物は常に主体的です。生きていくために、いやだと言わずに、自分から飛び立っていきます。



「習」という漢字は、「ひな鳥が翼を動かして飛び方を習う」ところからできました。「習」の上の「羽」は「重なり合う鳥の羽」、「白」は「口と呼気」を表します。「繰り返し練習する・教わる」という意味の漢字になりました。昔の人は、ひな鳥が飛び立つ様子から、「習う」ということを認識したことが分かります。まさに、子供たちの「学ぶ」姿と同じです。教えてもらい、繰り返し行いながら、できるようになるのはツバメも人も同じです。



7月5日の授業参観(水泳記録会)には、多数ご参観いただきありがとうございました。ここ最近の暑さで、梅雨の合間はまさにプール日和。自然と気持ちも上がります。プール学習も、鳥たちが飛び立っていくのと似ているように思います。空ではないですが、「水」に向かっていく姿、浮いたりもぐったり水を克服していく姿、手足を動かし進もうとする姿、苦しい中、途中で空気を求め息継ぎする姿、上手に体全体を動かし美しく速く泳ぐ姿…、魚のように気持ちよさそうに水の中を泳げるようになるには、繰り返し「習」っていかなければなりません。記録会では、子供たち一人ひとりが、自分の目標を設定し、それに挑戦する姿が見られました。



目標を達成するためには、主体的でなくてはなりません。周りの応援や助言を受けながら(教えてもらいながら)も、最終的には、自分との戦いになります。泳ぎながら、直接、手を貸してもらうことはありません。それが、まさに「習」って、できるようになることであると思います。

目標を達成できた子供たちの顔は、(疲れてはいますが)どこか、誇らしげでうれしそうです。ほかの授業でも、子供たちが分かったりできるようになったりして、「楽しい」と感じられる、そんな授業にしていきたいです。自分でエサをとれるようになり自立したツバメは、秋、南の国に旅立つと言います。小さな体ですが、校訓「大きな望み たゆまぬ努力」のように、身につけた力を使って、また次の挑戦を続けていきます。